



↑フォトセッションで貫地谷さんと並び、報道陣に笑顔を見せる子役の子どもたち



↑上映前、楽しみにする参加者

↑撮影の様子などの写真展示コーナー

↑開場前から長蛇の列



↑主演と主役、監督を囲み、完成を祝った川添町長（写真左）と長元信男実行委員長

長島の魅力を全国へ公開

本町が舞台の映画「夕陽のあと」の完成披露試写会が10月26日、町文化ホールで開催され、2回の上映で約1000人が詰め掛けました。

この日は協賛企業や撮影協力をした町民、報道などを対象とした招待者の部と一般の部に分けて行われ、招待者の部の上映会では、主演の貫地谷しほりさんと松原豊和君（獅子島小5年）、越川道夫監督による舞台あいさつが行われました。

3人が登場すると、観客席から拍手が響き渡り、貫地谷さんは「普通に育ってきたことが幸せなことだと改めて感じ、すべての人の普通であってほしい」と役を演じた感想を話しました。

続いて、松原君は「演技は難しかった。完成した映画を見るのが恥ずかしかった」と笑いを誘いました。越川監督は「長島の人たちの伸びやかな感じが映画の中に映り込めば、魅力が伝わると思ひ撮影した。出演した子どもたちが大人になり、自分の子どもに伝えていける財産になれば」と映画への思いを話しました。

最後に貫地谷さんが「今日は長島の人たちに再会できて良かったです。ありがとうございます。盛大な拍手が湧き起こりました。

このほか、劇中で汐見樽太鼓のメンバーや子役として出演した子どもたちが壇上に上がり、貫地谷さんらとのフォトセッションが行われました。

上映中、スクリーンに映し出される町内の風景や町民らの演技に声を上げたり、笑いが起こったりして、思い思いに楽しんでいたり鑑賞者でしたが、終盤になると感極まって目がしらを押しやる人もいたなど感動した様子でした。

撮影に参加し、鑑賞した岩下良子さん（宮ノ浦）は「家の近所が映り感動。女優さんがブリの世話をしているのを見られて嬉しいし、PRにつながる」と喜んでいました。

映画は11月中旬に全国の劇場で順次公開される予定です。親子の絆を描いた本編をぜひ、ご覧ください。

出演者と監督からのコメント



出演
松原 豊和君

セリフを覚えるのが難しく、たくさん練習した。文化祭の劇と違って、映画は演じている時にお客さんの反応が分からないからちゃんとできているか不安だったし、獅子島の皆と一緒に居なかつたから、細かい時もあつた。映画が無事に完成して嬉しいし、将来のことで映画にもちよつと興味を持てた。



監督
越川 道夫さん

長島の財産になるようにと思い、映画を撮つた。長島の人たちの印象は総じて明るく開放的。今までいろいろな町で撮影してきたが、演技が上手で心配したことはなかつた。島の記録として、繰り返し見てほしい。全国の人に長島の魅力が伝われば嬉しい。